

西多摩運送

玩具の物流業務開始

品質向上でコストを削減

子供たちに夢を届ける仕事を……。西多摩運送(本社・東京都昭島市、千原武美社長)は、大手おもちゃメーカー・タカラトミー(本社・東京、富山幹太郎社長)の物流業務を五月から本格的に開始した。物流コスト削減、品質向上、リードタイム短縮など、高度な物流サービスの提供を目指す。

(小林 孝博)



千原 武美社長

業務はタカラトミーの物流子会社であるタカラトミーロジスティクス(本社・千葉県浦安市、松田吉康社長)が物流管理や運営の仲介を行い、

流通加工などの業務を西多摩運送が引き受ける。対象は約二万アイテムで、全国のおもちゃ店に商品を配送。発送は自社に加え、各地の運送業者を利用している。

物流施設はタカラトミーが入居したアロロジスパーク市川Ⅱの二〜五階、約六万平方メートルを使用。システムは最新のピ

ース仕分けソーターを導入。一日に三十五万ピースを扱うことができ、作業を効率化させるという。

利益よりも品質向上を優先

タカラトミーはベイベーレードやトランスフォーマーなどの大人気商品で好調に売り上げを伸ばす企業。

「同社の『夢をカタチに』というコンセプトに引かれ、おもちゃという夢を子供たちに運ぶ仕事を手掛けようと思った」と千原社長は話す。

今回の業務請け負いは、西多摩運送がこれまで通販業務などで培ったノウハウや高品質なサービス、小回りの利く企業姿勢が評価された形だ。今後の展開としては、「まずは利益よりも品質の向上が先。ピッキング作業などでサービスの質を上げ、コストを下げていくほか、納品のスピードも早めていきたい」と千原社長。

おもちゃは子どもたちに夢を運ぶ商品。「夢をカタチに」から「夢をストーリーに」というコンセプトを持つ西多摩運送が新たな物流業務を展開していく。